



中

競技内容

競技はアルペンスキー、スノーボード、スキークラフト、フリースタイルスキー、ショートトラック、スピードスケート、アイスホッケーの7種目。市庁舎4階にある猪苗代町総合体育館で行われる。11日は各競技の予選が行われ、12日は全員が決勝に臨む。

自信芽生え生活変化

「できないことが悔しい。もっとできるよ」という言葉が、自分にはやれるんだと強く思う。郡山市の福祉施設で働く辺見佐知子さん(33)は寒風が吹き付ける雪原で白い息を吐き出す。長さ約三十メートルのスノーシュー(西洋かんじき)で軟らかい雪道を再び駆け出す。

「学校でも、就職後も『難しいければ、やらなくていいよ』と言われる挑戦しなくなった。違うと思ったが、きつくなってきた。その楽しさに震える。大会ではスノーシューイングに出場する。心に芽生えた自信と興味は、暮らしても変えられなかった。関係者の知力や体力づくりでジムにも通う。『SOは、ありのままがいいので自分の世界が広がる。障害もチを務め、次男にも猪苗代町の県職員高野さん(30)は自閉症の次男(2)がアルペンの競技に出場する。子どもも親も決め付けず思い切ってみることも大切。障害の程度にもよるが、必ず何かが変わる。子どもの可能性を信じて」と力説した。

挑戦が伸ばす能力

「学校でも、就職後も『難しいければ、やらなくていいよ』と言われる挑戦しなくなった。違うと思ったが、きつくなってきた。その楽しさに震える。大会ではスノーシューイングに出場する。心に芽生えた自信と興味は、暮らしても変えられなかった。関係者の知力や体力づくりでジムにも通う。『SOは、ありのままがいいので自分の世界が広がる。障害もチを務め、次男にも猪苗代町の県職員高野さん(30)は自閉症の次男(2)がアルペンの競技に出場する。子どもも親も決め付けず思い切ってみることも大切。障害の程度にもよるが、必ず何かが変わる。子どもの可能性を信じて」と力説した。



雪上の徒競走・スノーシューイングの練習に励む辺見さん(1)月、猪苗代町の沼尻スキー場

三歳から教えていたが、他の障害者と一緒に競技するのは困難と聞いていた。高久さんは「子どもも親も決め付けず思い切ってみることも大切。障害の程度にもよるが、必ず何かが変わる。子どもの可能性を信じて」と力説した。